

## 三島由紀夫を読む

奈良　敏行

(笈の定有)

十月の定有堂教室「読書室ビオトープ」の課題本は、三島由紀夫の『金閣寺』だった(二〇二五)。この本の選定と報告は萩原さんだった。

心象の金閣寺と現実の金閣寺の乖離をめぐる、一人の人間の葛藤、深淵を覗かせる劇的な物語だった。

小説は外部をまじえずにテキストだけで完結して読めばいいという意見もあった。それでも十分だと思ったのだが、隣に座っていた黒崎さんがテーブルに数冊の関連本を積み重ねているのが目に入った。その中に二〇〇分の名著『三島由紀夫 金閣寺』があった。著者は平野啓一郎だった。直感的に、金閣寺と天皇を絡み合わせる論だと思った。「これ読みたい」と言って借りて帰った。

論点は、三島が拘り続けた「言葉と現実の合致」の意味を考えるとところにあった。主人公の親友二人が登場するが、一人は世界を変化させるのは「認識」だといい、もう

一人は「行為」だという。この問題意識は「金閣寺」ではどのように整理されたのだろう。平野は「共滅願望」の下に物語が終わると語っている。

このところジョン・クラカワーの『荒野へ』の二十代の青年の生き方に興味を抱いてる。わたしの読書が、自分の青年期の初発衝動をめぐるところに、いまも行きつ戻りつしているからだ。「荒野」について考えつづけている。そんな中、「『荒野』より」という短篇があるのを知った。ある夜三島の自宅に「文学的観念的狂人」が乱入したという話だ。狂人というのは適切でなく、行動派の知識人だと考えていいのではないかと思う。新聞社にも勤めていたらしい。彼がくり返して言うのは「本当のことを話して下さい」という疑義だった。

このエピソードをなぜ短篇に残したかというと、「あいづは私の心から来たのである。私の観念の世界から来たのである。」と三島は確信できたからだ。ドッペルゲンガーだろうか。「文学的観念的」な「狂」の世界、それが三島の「荒野」だったようだ。

読書会はテキストだけで十分という共通理解だったが、「三島の思想ってなんだったのだろう?」という自問自答のような声も聞こえた。国家論としての「文化防衛論」と、最後に登場した「革命哲学としての陽明学」だった、と記

憶を思い起こした。国家論のかなめは「天皇Ⅱ宮廷」だった。

《「みやび」は、宮廷の文化的精華である、それへのあこがれであったが、非常の時には、「みやび」はテロリズムの形態をさへとった。すなわち、文化概念としての天皇は、国家権力と秩序の側だけにあるのみではなく、無秩序の側へも手をさしのべてゐたのである。》

「みやび」と「テロリズム」、「雅」と「覇権」、ここでも対立しながらも統合される概念が語られる。結論は「天皇と軍隊を榮譽の絆でつないでおくことが急務」という認識だった。

三島の周辺にいた人たちが震撼したのは「革命哲学としての陽明学」が発表された時だ。

《革命は行動である。行動は死と隣り合わせになることが多いから、ひとたび書齋の思索を離れて行動の世界に入るときに、人が死を前にしたニヒリズムと偶然の僥倖（ぎょうこう）を頼むミスティシズムとの虜（とりこ）にならざるを得ないのは人間性の自然である》

大塩平八郎を例に引いているが、陽明学は「知行合一」で、しかもその行動原理は、日本人独特のニヒリズムに支えられているという。だから西欧人には理解できないことだといふはなす。理性のもとにこの行為はないというの

だ。

忘れていたはずの狂乱がよみがえり、心の「荒野」の中に再帰してくる。「わたしの自主防衛論」には次のようにいう。

《文化のタテの連続生を守っていかねばヨコにいくらひろがっても、結局われわれが日本人としての魂を保持できないのではないか。そして私は天皇のお姿が日本の文化をよくあらはしてゐると思ふ。》

三島は内面の荒野の中で「本当のこと」に出会うことができたのだろうか？ 幕末維新の動乱のときの「天皇」に「みやび」が具現していたのだろうか。もう少し多面から考えてみたいと思い、『幕末・維新』岩波新書を読みはじめている。「本当のこと」を知ってもどうなるわけでもないが、結論のでない読書がわたしの「荒野」だ。しかしそこには「幸い」があるように思う。

025.11.04

三島由紀夫 『金閣寺 新版』新潮文庫 2020

ジョン・クラカワー 『荒野へ』集英社文庫 2007

平野啓一郎 『三島由紀夫「金閣寺」』NHK100分de名著 2021

- 三島由紀夫 「荒野へ」『決定版三島由紀夫全集 20』新潮社 2002
- 三島由紀夫 「文化防衛論」「わたしの文化防衛論」『決定版三島由紀夫全集 35』新潮社 2003
- 三島由紀夫 「革命哲学としての陽明学」『決定版三島由紀夫全集 36』新潮社 2003
- 井上勝生 『幕末・維新 シリーズ日本近現代史 1』岩波新書 2006